



高山西ロータリークラブ

例会報告

第 2 6 3 0 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1 9 6 6 年 1 月 1 5 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 大垣共立銀行 高山支店 4 F
- 会長 折茂 謙一
- 幹事 米澤 久二
- 会報委員長 脇本 敏雄



「2012 秋の高山祭 獅子舞」 蜘蛛 康介

<会長の時間>

交換学生の実現を来年から、と念願していましたが、派遣のほうは残念ながら直前になり取りやめになりました。受け入れの方に関しては、来年1月からオーストラリアからの15歳の女子学生の希望がありました。猫アレルギーがある事、自宅はオーストラリアの田舎らしいということ以外には情報はありません。



交換学生の実現は高山と世界を結ぶ橋渡しとなると思います。今回の女子学生が10年後20年後、さらには50年後にどのような人物に成長するのか誰にも分かりません。彼女の力で高山の魅力が世界にアピールできる日が来ることもあるかもしれません。高山は観光産業がメインであり世界中から観光客が集まっています。オーストラリアの15歳の少女が日本の高山を選択したということはそれだけ高山が魅力的であるということだと思います。彼女が過ごす高山での1年が一生の思い出に残る素晴らしいものになるよう、高山西ロータリーの皆様のお力添えをお願いしたいと思います。

我々ロータリアンは世のため人のために旗印にしています。交換学生の実現に尽くすことは素晴らしい奉仕の機会であると思います。我々ロータリアンの力を、交換学生を通じて世界への奉仕へとつなげたいものです。聖書には『与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。人々は量りをよくして押し付け、揺すりいれ、あふれるまでにして、懐に入れてくれるでしょう。あなた方は、人を量る量りで、自分も量り返してもらおうからです。』と書いてあります。

10月25日の日経新聞に、カリフォルニア大学の中村修二教授の『世界と競うには英語力が必要』という記事が出ていました。中村氏は20世紀には絶対不可能と言われていた青色発光ダイオードの開発に成功された方です。大学の活性化対策として外国人留学生の受け入れ、英語力の向上、常識の打破が必要だと指摘されています。学校での英語教育は実践的ではない。英語で交渉する力、製品、サービス、技術、について説明し、売り込む語学力が必要だ。そのためには早い時期での留学が必要であると述べておられます。

<幹事報告>

◎ガバナーより

- ・2011-2012 年度 地区資金収支報告書、および 2011-2012 年度ロータリー文庫決算書

◎国立乗鞍青少年交流の家より

- ・「アセアン加盟国中学生招聘交流事業」について

◎ぎふ清流国体高山市実行委員会より

- ・第67回国民体育大会 ぎふ清流大会開催に係るお礼



<例会変更>

可見………11月8日(木)は、南富川 RC 交流会反省会のため

11月22日(木)は、松野湖クリン作戦参加のため

25日(日) 松野湖 に 変更

11月29日(木)は、夜間例会のため18:30~に変更

<受贈誌>

ロータリー財団(「未来の夢」ニュースター)、可茂 RC(会報)、台北東海 RC(会報)

<出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	36名	15名	51名	51名	100.00%
本日	51名	-	42名	51名	82.35%

<本日のプログラム>

I A C 飛驒地区研修会報告

I A 委員長 蜘蛛 康介

10月21日(日) 13:30~高山市民文化会館 2Fにて、今回は飛驒高山高等学校インターアクトクラブがホストクラブ、そして高山西ロータリークラブがスポンサークラブとして開催しました。講師に UAE 国立ザイド大学ドバイキャンパス日本語講師 松原直美様、



奉仕を通じて平和を

例会報告

来賓として濃飛グループガバナー補佐 下呂 RC 上野田隆平様、新世代部門インターアクト小委員会委員長 四日市 RC 伊藤靖則 様、新世代部門インターアクト小委員会委員 岐阜サンリバーRC 今津美憲 様をお迎えしました。参加者は下呂 RC 会長 布目美智男 様、益田清風高校 顧問 田上典子先生および生徒 17名、高山 RC 会長 角竹邦夫 様、幹事 山下英一様、委員長 塩谷紀夫 様、副委員長 河合清文 様、および斐太高校 顧問 長尾彰先生と生徒 6名、そして高山西 RC 副会長 田中武さん、幹事 米澤久二さん、委員長 蜘蛛康介および飛騨高山高校 顧問 荒川一弘先生、服部洋子先生と生徒 9名の計 49名の参加者でした。内容詳細については、後程の荒川先生の報告にお任せしたいと思います。

本年度のインターアクト委員長としての行事も今回の合同研修会で最後になりました。年間行事を通しお世話になりました荒川先生には本当に感謝しておりますし、また、このロータリーにはぼくのような若輩にこのような貴重な機会を与えてくださったこと本当にありがたく感じております。当初はインターアクトについて分からない知らないことだらけで不安も一杯でしたが、まずはチャレンジするということがとても大事だということに気付かされましたし、それを支援・協力していただけるということがとてもありがたいことだということを感じました。本当にありがとうございました。

インターアクト委員長として、今回の飛騨地区合同研修会で年間行事が最後になったわけですが、お陰さまで色々なことを勉強させていただきました。インターアクトについて全て把握し理解出来たとは思いませんが、基本とする考え方にはある程度の理解が出来たと思っています。その中で一番ぼくが当初思い違いをしていたのが、このインターアクトの活動全ては、そのインターアクトクラブに所属している高校生こそが主役であるということです。ぼくたちロータリアンはその活動を支援し協力する。所謂、裏方であるということです。大きな枠組みや土台などは大人が用意し、そこに掲げられたインターアクトの理念の上に高校生の自発的な活動を促し誘導する。これこそが大きな一つの役目であるということを確認しました。国際感覚に優れた人材の育成。これは今も昔も日本人にとって一番苦手なことです。大陸とは違い日本は島国で元来排他的な性質を持っています。そこを打ち破り世界に気遣いを取らない、コンプレックスをなくすには、実際に世界に出てみるしかありません。初めての海外旅行に行くという緊張感が二回目以降薄れていくような感覚です。経験する場を高校生達に提供する。そのための支援と協力こそが、このロータリーにおけるインターアクト活動の軸であると思うに至りました。

そういった部分では、ぼくも高校生と同様にインターアクト部員であったと思います。この委員長という役目をいただき、いくつかの行事に参加させていただけたことで、さまざまな角度から勉強させてもらいましたし、自分のキャパシティというものが広がったように思います。本当に貴重な体験をさせていただきました。重ねて御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。



飛騨高山高等学校 IAC顧問 荒川 一弘 先生

いつもお世話になっております。本来なら生徒が来て報告をさせていただくべき所ですが、本日山田校舎の文化祭のため、私のみでご容赦下さい。

早速ですが飛騨地区 IAC 合同研修会についてご報告します。当日は 11:00 より事務局中澤さん、飛騨高山高校より荒川、服部で準備を開始。指標貼り付け、席並べ、マイク準備を約 1 時間で完了しました。高山駅において 12:18 講師を出迎え、講師の要望により、昼食として高山ラーメンを食しました。東京のラーメンよりあっさりしていて美味しいという評価でした。普段、緑や山がない所に暮らしているので、高山は、緑がたくさんで、高い建物がないことが心地よいと言っていらっしゃいました。

講演者の松原 直美様は、元 UAE 国立ザイド大学ドバイキャンパス日本語講師で、「ドバイを通してイスラム教・アラブ社会をのぞいてみよう」というタイトルで講演をしていただきました。講演内容はこの後の UAE クイズにて代えさせていただきます。松原先生のインターアクターへのメッセージは、英語を話すことが最低条件であり、英語を話すことで自分の世界が変わる。一瞬のコミュニケーションは英語が話せなくても可能だが、継続するためには、英語で話し合えないと理解できないことがある。相手の国や民族を尊敬し、色々なソースから情報を手に入れ、知識を蓄積することが大切である。日本を紹介できる日本文化に一つ秀でていること、歌やスポーツ、楽器ができることが望ましいということでした。イスラムに対する考え方が変わる刺激的な講演でした。公演後の質疑応答では、インターアクターを差し置いて大人たちが熱心に質問している姿が印象的でした。

the UAE クイズ

- (1) アラブ社会での良い天気とは？ 雨の日
- (2) アラブと言われる国は世界に約何カ国？ 20カ国
- (3) アラブ人は日本人をどう思っているのか？
①嫌い ②尊敬している ③お金儲けが上手い
- (4) イスラム教では男性は、集まりではお酒の代わりに何を飲んでいるのか？ アラビアコーヒー
- (5) UAE の人は英語を話すことができるのか？ 出来る
- (6) UAE の外国人の比率は、何%でしょう？ 80~90%
- (7) イスラム教の UAE でキリスト教の教会を建てることは？ 出来る

例会報告

- (8) UAE でも韓流ドラマは人気? 大人気
- (9) UAE ではキャプテン翼が子どもたちに人気?
「キャプテン マジット」として大人気
- (10) 携帯電話(スマートフォン)は平均何台所有しているか? 2~3台
- (11) UAE では国のリーダーは日本と違い敬愛されている? YES
- (12) 公務員の初任給は日本円で何万円でしょう? 約60万円
- (13) UAE の国立大学にはショッピングモールがある? YES
- (14) 結婚式は男女別で日を変えて行うこともある? YES
- (15) 女学生の大学進学率は何%でしょう? 90%
- (16) 税金はどのくらいか? 0円



奉仕を通じて平和を

例会報告

IM報告

塚本 直人

10月14日に初めて濃飛グループIMに参加させていただきました。僕自身はIMの意味も解からず集合しバスに乗り込みました。そこで、先輩会員にIMについてレクチャーを受けました。Intercity Meetingの略称がIMであり、用語集にはつぎのように記されていました。都市連合会の略称。従来においてはIGFも厳密にはIMの中の一会合であるが、最近広義のIMの名称で開催される。近隣都市数クラブが集まって親睦・情報教育その他の目的で行われるロータリーの会合。決議や決定はない。IMへの出席はメイクアップとなる。

小森さんと脇本さんから、もっとわかり易い説明がありました。そのときはよく理解できました。やはり、諸先輩からのお話には勉強になることが多く、参加したことは良い経験になりました。

物故会員の追悼から始まった式典は、立派な設営が下呂ロータリークラブの会員の方によって準備され、華やかで厳格なものを感じました。元東京地検特捜部部長の熊崎勝彦さんの講演が行われ、テーマ「現代の世相と人間力」ということで勉強させていただきました。特に印象に残った話は、現代においては恥を知らない世界がまかり通るようになり、職業人のプロ意識の欠如が散見される。仕事は大切な志事であり、現代においてこそ、高い倫理観とところざしを持つことが必要とのことでした。自分も職業人として誇りを持ち、真摯にロータリアンとして生活することの重要性を再認識しました。

懇親会では、高山、高山中央ロータリークラブの方ともお話ができ、有意義な会となりました。

帰りの車中でも先輩会員の方から、ロータリークラブにおいての三つの義務を改めて、レクチャーいただきました。

- ① 例会には参加すること
- ② 会費を支払うこと
- ③ ロータリー誌を読んで勉強すること

すぐに実践する決意をしました。新会員の皆さん、積極的に行事に参加しましょう。

鴻野 幸泰

10月14日、下呂RCホストによる濃飛グループIMに行って来ました。濃飛グループから120人が集まり、下呂の水明館で午後3時点鐘で始まりました。は

じめに上野田ガバナー補佐の開会の言葉があり、次に下呂



RC布目会長の歓迎の言葉、次に村橋ガバナーの挨拶がありました。

続いて勉強会は、下呂出身の弁護士 熊崎勝彦様の「現代の世相と人間力」の講演を聞かせていただきました。その後時期開催ホストクラブの発表があり、加茂東RCに決まりました。加茂東RCは会員が11名のクラブですが、次期ホストとしての会長さん挨拶の中で真剣に取り組む考えを話されました。

第二部では場所を変えて懇親会を和やかなムードの中過ごさせていただきました。



奉仕を通じて平和を

例会報告



<ニコニコボックス>

●折茂 謙一さん

本日のゲストは、飛騨高山高校インターアクトクラブ顧問、荒川一弘先生です。よろしくお願いします。

●米澤 久二さん、田中 武さん

飛騨高山高校インターアクト部顧問 荒川先生ようこそいらっしゃいました。21日のインターアクト飛騨地区研修会の報告をよろしくお願いします。また、14日水明館でありました濃飛グループIMの報告を塚本さん、鴻野さん、よろしくお願いします。

●内田 幸洋さん

荒川先生、毎度御苦労さまです。来月早々には、OB企業展にお世話になります。

●平 義孝さん

家内の誕生日にクラブからとても美しいお花を贈っていただきありがとうございます。

●洞口 良一さん

休みが多くて遅れましたが、会員誕生日、家内の誕生日、出席表彰をいただきありがとうございます。まとめてお礼に替えさせていただきます

●垂井 政機さん

高校の同期生スクリーン版画の代情房子さんの個展が遊朴館に於いて開催中です。新聞などにも紹介されておりますが素晴らしい作品が多数あります。是非ともご覧になって下さい。

●小林 勝一さん

八幡神社と国分寺で菊花展が開催されました。両方共に出品しております。時間がありませんでしたら見に行ってください。

一期一会

鍋島 勝雄

自分の人生の中で、人とのつながりが一番大切で有る事をロータリーで学ばせて頂きました。

入会の時、会場の雰囲気にも圧倒され怖さを感じ足元が震え紹介の挨拶は今でも思い出すことが出来ない緊張感でした。しかし、数回出席する間に雰囲気にも慣れた頃、大先輩から隣の席を勧められ食事中、色々な体験談を聞きました。多くの先輩に共通しているのは、自分への誇りと、信念を持った心を大切に生きて見えます。小さな出会いでも大切にされ夢を持ち続け“和の心”念ずる心を持つ事の大切さを教えて頂きました。

若輩の私が46代会長を務めさせて頂いたのも、高山西ロータリークラブの伝統である“和”を大切に、人間関係を最大限に活動出来たからだと思います。

あらゆる業種の会員の方が多く見えます。積極的に“人脈づくり”を。それには会員の義務の一つ“例会出席”を。

奉仕を通じて平和を